

\*\*\*\*\*

「海の生き物を守る会」メールマガジン No.22

2008. 8. 1 (金)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

\*\*\*\*\*

**「今月の海の生き物」 カムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume***

日本固有種のウミスズメ科の小型の海鳥。国の天然記念物であり絶滅危惧種に指定されている。ウミスズメ類が寒帯域に生息する中で、この種のみが温帯域に生息する特殊なウミスズメである。繁殖地は伊豆諸島や宮崎県枇榔島など。最近、原発建設予定地の山口県長島付近で生息が確認され、長島の自然を守る会などが(株)中国電力に調査を要求している。頭部に冠羽をもち、体色は白と黒で小型のペンギンといった風情。潜水性で小型魚類やエビ・アミなどのプランクトン甲殻類を食べていると見られる。



(写真は上関町長島周辺の海にて。木村路子さん撮影)

\*\*\*\*\*

目次 「今月の海の生き物」カンムリウミスズメ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 当会の活動予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介
5. 事務局便り
6. 編集後記
7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

\*\*\*\*\*

## 1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

**【全国】**

### ●「鉄鋼スラグ」埋め立て材に 新日鉄など東京・大阪湾で実用化へ

日本経済新聞が伝えるところによると、新日本製鉄やJFEスチールなど鉄鋼大手は、鉄の製造工程で出る残りかす「製鋼スラグ」を海の埋め立て材にする技術を共同開発した。人工干潟の造成や、海底の穴の埋め戻しなどに利用し、資源を有効活用するという。東京湾や大阪湾、伊勢・三河湾などの自然再生事業に応用し、海の水質浄化につなげることを理由に、2、3年後の実用化を目指している。港湾工事などで採取した海底の軟弱な泥にスラグを加え、ミキサーでかき混ぜる。スラグに含まれるカルシウムなどの効果で、泥がセメント状に固まることを確認した。

鉄鋼スラグなどを海に埋め立てて干潟や浅場の造成とか、アマモ場の創成などと称した産業廃棄物の海中投与が各地で問題になっている。05年に産廃をリサイクル材と称して各地に被害を与えた「フェロシルト」問題では、フェロシルトに六価クロムが含まれることが明らかになり、リサイクル材と称した会社幹部が逮捕されてフェロシルトが撤去された。鉄鋼スラグはアルカリ性が強く、各地に野積みになった鉄鋼スラグの影響で稲が枯れるなどの被害も出ている。同じ年に愛媛県大島吉海町に5万5千tの鉄鋼スラグが野積みにされた。その後、海のカキが死に始め、ボラも死んで浮いてきた。鳥もメダカも姿を消し、住民にも健康被害が現れてきた（週刊プレイボーイ、07.2.12号）。

今回の新日鉄などの技術がどこまで鉄鋼スラグの無害性を主張できるかはまだわからないが、少なくとも干潟の造成に鉄鋼スラグを入れることは底質の流動性を阻害するなど、底生動物にとって自然の砂泥とは異なった海底となることは間違いない。「鉄鋼スラグ」は、管理型産廃処理場で処理すべきものだ。他にも、産業廃棄物をリサイクルと称してコンクリート状に固めたあと、海に入れて藻場造成と称する「エコロジー運動」が各地で企

業によって計画・実施されている。商品の偽装はエコロジー運動にまで広がっているようだ。

近年、粗鋼生産が増大し、国内では年間 4000 万トンのスラグが発生している。大半は道路の路盤材や土木資材に再利用しているが、公共工事の縮小で市場は縮小が懸念されている。企業では、なんとか廃棄物を海に入れてコスト減を図ろうと懸命のようだ。

## 【関東】

### ●浦安から川崎沖合は「死の海」が広がる

国、県、横浜市と川崎市などの沿岸自治体が 7 月上旬に行った東京湾の水質一斉調査で、生物の息が困難になる「貧酸素水塊」が発生、東京湾の三分の一以上を占めていることが分かった。千葉県浦安市沿岸などの湾奥の底層部が主な貧酸素水塊の発生地点だが、川崎市の沖合にも広がりを見せており、横浜市では「“死の海” がこれほど大きいとは予想外だ」と話している。東京湾や流入河川など計 568 カ所で調査。酸素濃度や水温などのデータを収集し、青潮の発生源となる貧酸素水塊の実態や、湾全体の酸素濃度の分布を分析した。貧酸素水塊は航路拡大などで浚渫（しゅんせつ）され掘り込まれた海底などに点在すると考えられてきた。しかし、今回の調査では貧酸素水塊が「面」として存在しており、しかも一部は海底から海面近くまで深さ 10m 前後の厚みを持っていることも判明した。

貧酸素水塊は、海水 1 リットル当たり 2mg 以下の酸素濃度が目安となる。神奈川県内沿岸の酸素濃度はおおむね魚介類などがなんとか生存できる 3mg 以上だったが、海流や風向き次第で横浜市沿岸にも南下する可能性が考えられる。

## 【中四国】

### ●小松海岸でも 4 年ぶりにアカウミガメが産卵

徳島市川内町の小松海岸に 22 日夜 10 時過ぎに、体長約 1m のアカウミガメ 1 匹が上陸し産卵したのが発見された。04 年 6 月以来の久しぶりの確認となった。上陸したのは小松海水浴場の中央付近。散歩していた市民が発見。1 時間後に海に戻ったという。波打ち際から足跡が数百 m 続いていた。

### ●バラスト水を熱処理する研究

尾道市の船体艀装会社は広島大などと共同で、空荷の船体を安定させるために積む海水「バラスト水」の浄化処理装置の開発に取り組んでいる。

バラスト水はタンカーやコンテナ船が搭載し、多くは航海先の港などで処理されずにそのまま排水されるため、取水した場所のプランクトン、微生物や細菌が、排水先の生態系を乱す恐れがある。特に、最近の海産生物の外来種の原因としてバラスト水は大きい問題となっている。

新しく開発されている装置は、取排水時に海のプランクトン、微生物や細菌をろ過器や

エンジンの余熱で除去・死滅させる仕組み。バラスト水を船内に取り入れる際は、砂や石炭を使つたろ過器でプランクトンの95-99%を除去する。排出時は、エンジンの廃熱などで75度まで温度を上げたタンクにためて殺菌し、熱交換器を通して水温を下げてから海に戻す。熱は再利用する。既に国際海事機関（IMO）の排出基準を満たしているという。オゾンや過酸化水素などの活性物質を使った浄化処理装置の開発に取り組んでいる事例はあるものの、熱処理方式は珍しい。

## ●ジオパーク推進協が「山陰海岸を知る会」を開催

世界ジオパークネットワーク（GGN）加盟を目指し鳥取県などをつくる山陰海岸ジオパーク推進協議会は30日、鳥取県岩美町一帯で「山陰海岸を知る会」を開いた。集まった親子連れら45人が、遊覧船で沖合から地形を観察したり、熊井浜でスナガニ捕りに汗を流したりして楽しい一日を過ごした。

GGNに加盟が認められる条件として地形を活用した教育的活動の普及が行われていることと言う要件があるため、今年から子どもたちを対象にした観察会を実施したもの。同町の熊井浜は、左右の磯が赤褐色をした花崗岩と黒い色の火山岩で構成されていて、地形の形成過程の違いを観察できる場所である。熊井浜で子どもたちは、近くにある山陰海岸学習館の学芸員からスナガニの捕り方を教わった後、砂を掘ってカニ捕りに挑戦した。その後、遊覧船で網代港から浦富海岸まで約2.5kmの海岸の絶壁や洞穴、洞門などを観察した。ジオパークへは国内から5地域が立候補しており、日本ジオパーク委員会が3地域に絞って12月にGGNへ申請することになっている。

## 2. 当会の活動予定

### ●海の生き物を守る会・長島の自然を守る会 合同観察会・砂浜海岸生物調査

日 時：8月2日（土）

場 所：山口県上関町長島（田ノ浦）

日 程：午前10:30 蒲井港に集合（柳井港発9:30に乗船すれば蒲井港に10:15着）

集いの家で昼食後、田ノ浦海岸で砂浜海岸生物調査

集いの家で夕食後、田ノ浦海岸でアカテガニの放仔を観察

翌朝、朝食後解散

指 導：横浜康継（南三陸町自然活用センター）、池澤広美（茨城県立博物館）、  
向井 宏（海の生き物を守る会）

参加費：無料

後 援：セブン-イレブンみどりの基金

参加希望者は090-8563-1501（向井）にご連絡ください。

## 「防災と環境の両立を目指して ～白砂青松を取り戻そう～」

ワークショップ

### 野付半島の自然を守るために(防災と環境の両立を目指して)

**多くの方の参加を期待しています！！**

#### 【ワークショップの趣旨】

野付半島は砂州とそれに囲まれた浅い野付湾という特徴的な地形に作られたきわめて珍しい自然を持っている。ここにある自然は、寒帯域に特徴的な泥炭層の上に成立した塩性湿地と干潟、およびその後背地に成立した亜寒帯の寒冷地植物群を基礎とし、その基盤の上に成り立った貴重な昆虫や鳥類などを含む生態系を構成しており、道立自然公園やラムサール条約登録湿地、環境省の重要湿地 500 にも登録されているだけでなく、学術的にも貴重な生態系である。

しかし、近年になって野付半島の砂州が痩せてきており、砂浜の消失が続いている。砂浜の消失の原因は陸と海とのつながりを絶つなどの人為的な営為が大きな原因であり、さらに長期的には地球温暖化による水位の上昇もこの傾向に拍車を掛けている。この砂州でできた野付半島が消失することは、同時に多くの貴重な種や生態系に回復不可能な損失を与えることを意味する。従来の手法による海岸保全も計画されているが、野付半島の特殊な自然を守ることが、これまでの防災・海岸保全の手法によって可能なかどうかを検討される必要がある。私たちは日本の自然遺産とも言うべき野付半島の自然を守るために、防災と環境の両立を目指した保全のあり方を検討していきたいと考え、各界の専門家に参加をお願いして以下のようなワークショップを計画した。このワークショップを通して、野付半島の自然を守りながら、よりよい防災・海岸保全を目指した取り組みへの提言を行いたい。

日時：8月26-27日（26日現地視察、27日話題提供と討論）

場所：別海町

26日午後14:00～16:00 野付半島および標津海岸・茶志骨海岸の視察

尾岱沼漁港、沖の干潟→標津川河口→標津漁港→野付半島付根付近の砂浜→野付半島先端付近の干潟→トドワラ→ネイチャーセンター→尾岱沼

27日午前09:00～15:00 ワークショップ

会場：別海町東公民館 大集会室

北海道野付郡別海町尾岱沼潮見町7番地

電話 0153-86-2141 f a x 0153-86-2142

プログラム

9:00~9:10

挨拶

未定（別海町）

ワークショップ開催趣旨について

向井 宏（海の生き物を守る会代表）

話題提供：

9:10~10:40

1. 生物多様性に関する「温暖化適応策」を考える

鷺谷いづみ（東京大学大学院教授：保全生態学）

2. 鳥の渡りと野付半島の自然

樋口広芳（東京大学大学院教授：鳥類生態学）

3. 野付半島の自然と昆虫

加藤 真（京都大学大学院教授：動物生態学）

休憩（10:40~10:50）

10:50~11:50

4. 野付湾の海の自然と生き物

向井 宏（北海道大学名誉教授：海洋生物生態学）

5. 野付海岸の自然を守る取り組みについて

森田正治（野付半島ネイチャーセンター長）

昼食休憩（11:50~13:00）

13:00~14:00

6. 様々な人為改変の結果として沿岸漂砂の連続性が絶たれた砂嘴-野付崎の将来の姿を予測する

宇多高明（土木研究センター：海岸保全工学）

7. 現地から『総合的な沿岸管理』のために

川辺みどり（東京海洋大学准教授：海洋政策学）

14:00~15:00

総合討論（野付半島の保全と賢明な利用に向けて）

司会：向井 宏（海の生き物を守る会：代表）

対 象：研究者、住民、地元および周辺自治体、漁業者、農業者ほか

主 催：海の生き物を守る会（AMCo） 共催：別海町 後援：日立環境財団

参加費：無料 野付半島などの視察に参加希望者は事前に連絡してください。連絡先は、向井（090-8563-1501）もしくは真籠（0153-72-2111 ex.2220）

# ● 砂浜海岸生物調査のお願い

海の生き物を守る会・OWS

海の生き物を守る会では、セブン-イレブンみどりの基金の後援で、NPO法人OWSと共同で今年から全国の砂浜海岸生物調査を実施しています。日本の砂浜を生き物のために取り戻そうと計画された調査です。調査は誰にでもできる方法で計画されていますので、少しでも多くの方が、多くの海岸でこの調査に参加していただけるようお願いいたします。

ご協力いただける方は、事務局までお申し出ください。方法と調査報告用紙をお送りいたします。なお、方法と調査用紙は希望者にはメールでもお送りします。当会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> にも掲載しています。

## 3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

### 【関東】

#### ● エコツアーカフェ in 海老名ハウジングセンター

「海・川・森 神奈川のエコツアーは面白いぞっ」

神奈川県には海も川も山も、遊べる場所がいっぱい！ 夏休みには遠くに行かなくても、自然を楽しめるところがすぐそばにあります。故ジャック・モイヤー博士と共に三宅島で子どもを中心に海の環境教育を実践し、現所在地葉山で海の自然体験活動・環境教育を実施している、海野義明さん（オーシャンファミリー海洋自然体験センター 代表理事）が、自然の中での楽しみ方を紹介してくれます。

【ゲスト】海野義明さん

エコセン理事・オーシャンファミリー海洋自然体験センター 代表理事

【日程】7月26日（土）

【メニュー】トーク：11時～、13時～、15時～ 各30分

園内ミニツアー：11時半～、13時半～、15時半～ 各30分

【参加費】無料、申込不要

【場所】海老名ハウジングセンター [www.webhousingnet.com/ebina/map.html](http://www.webhousingnet.com/ebina/map.html)

【お問い合わせ】日本エコツーリズムセンター

Tel： 03-3954-2239 Fax：03-3954-2203

## 【近畿】

### ●エコツアーカフェ in 神戸「神戸の海の仲間たち」

六甲山系の南に広がる、神戸の海。閉鎖性水域である大阪湾に位置し、153万人が暮らす大都会神戸の海の中には、どんな生き物が暮らしているのでしょうか。この海の撮影を13年にわたって行った水中写真家の宮道成彦さんが今回のゲストです。ちょっと潜ってみるつもりで、大都会の海との関わりなどを考えてみませんか？

【ゲスト】宮道成彦氏（水中写真家）

【日時】8月4日（月）18:30-20:00

【場所】モンベルクラブ 神戸三宮店

【参加費】500円

【詳細・お申込み】[http://www.ecotourism-center.jp/cafe/cafe\\_kb080804.html](http://www.ecotourism-center.jp/cafe/cafe_kb080804.html)

【申込先・お問い合わせ】日本エコツアーリズムセンター

Tel : 03-3954-2239 Fax : 03-3954-2203

## 【中国】

### ●カンムリウミスズメの専門家による調査と公有水面埋め立て不許可 について

山口県庁へ申し入れをします。ご一緒に行きませんか。

\*日時 8月7日（木）13:00～14:00

\*場所 山口県県庁 8F 商工労働部会議室（予定）

\*集合 8月7日（木）12:45 県庁ロビー（テレビのあるコーナー）

\*参加される方は事前にお知らせください。

長島の自然を守る会 代表 高島美登里

### ●播磨灘を守る会 第20回エコツアー（予定）

～ 紀伊半島は田辺市天神崎・串本町・熊野古道を訪ねる ～

8月23日（土）～24日（日）

主催 播磨灘を守る会 TEL 079-322-0224

## 4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介

- 川村晃生（著）「日本文学から自然を読む」 勉誠出版 知慧の海叢書4  
¥1,400（2004）



●川村晃生・浅見和彦（著）「壊れゆく景観 ー消えてゆく日本の名所」 慶應義塾大学出版会 ¥2,500（2006）

●鈴木孝男（著）「干潟底生動物調査ガイドブック～仙台湾沿岸域編～」 日本国際湿地保全連合（2008）

## 5. 事務局便り：

- 講演の講師派遣を希望される方は、事務局へお問い合わせください。沿岸の生物やその環境についての問題、沿岸生態系の構造、保全、再生、地球環境問題、環境教育などに関する講演を行うことができます。
- 本会へのカンパをお寄せください。口座は埼玉りそな銀行指扇支店 3896180。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定です。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や海の生き物を守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーをごらんになりたい方は事務局までご一報ください。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

## 6. 編集後記

天候が不順のようですが、みなさんお元気でお過ごしですか。22号の「うみひろも」をお届けします。今月は北海道別海町で「白砂青松を守るプロジェクト」の野付半島ワークショップを開催します。ぜひ皆さんお誘いの上、涼しい北海道においでください（宏）。

## 7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。会員および関心を持っていただけると思われる方にお送りしています。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。「海の生き物を守る会」の趣旨および組織の概要は会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> をごらんください。

## 会員募集中！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。会員は本会の名前で各地の活動のための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局 [hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。

## 事務局員も募集中！

事務局を手伝っていただける人を探しています。パソコンが使える環境にあれば近くにいなくてもお手伝いいただけます。ただし、無収入です。海の生き物の保全・保護に関心とボランティア精神のある方。

メールマガジン『うみひるも』第22号 2008年8月1日発行  
発行&編集人「海の生き物を守る会」代表 向井 宏 (090-8563-1501)

〒350-0001 川越市古谷上 6083-7 M-1-212

メールアドレス：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：埼玉りそな銀行指扇支店 3 8 9 6 1 8 0

